



国民の森林・国有林

平成27年度 森林・林業の技術交流発表大会を開催



延べ250人が参加した技術交流発表大会

この発表大会は、九州林政連絡協議会が主催し、産学官の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成

果を発表し、技術の交流や情報交換を行い、流域の森林・林業の活性化を図る目的で開いているもので、昨年まで「森林の流域管理システム推進発表大会」としていたものを、今年より時

勢・現状に即した、わかりやすい名称「森林・林業の技術交流発表大会」と名称を変更し、今回で21回目を迎えました。開会にあたり、同協議会長の洲上和之九州森林管理局長から「現在、日本の森林・林業の再生に向け

10月27・28日の両日、九州森林管理局大会議室において「平成27年度森林・林業の技術交流発表大会」を開催。九州各県の森林・林業関係者や九州の各県で森林・林業を学ぶ高校生、局・署の職員など両日で延べ約250人が参加しました。発表はそれぞれの地域や職場、学校などで取り組んでいる、森林・林業再生に向けた取り組みや、民国連携による流域毎の林業の活性化や林業技術の向上、国民参加の森林づくりによる森林整備、シカ被害対策など多岐にわたる26課題（一般の部17課題、高校生の部9課題）の発表がありました。

多岐に渡る成果を発表 森林・林業関係者等延べ250人が参加



特別発表の崎野署長

「森林・林業の技術交流発表大会」と名称を変更し、今回で21回目を迎えました。開会にあたり、同協議会長の洲上和之九州森林管理局長から「現在、日本の森林・林業の再生に向け

た取り組みの方向性は、林業の成長産業化や地球環境への貢献等を推進することにあります。戦後植林された人工林を中心とした森林資源が充実してきているという特徴を活かし「九州から日本林業の再生」を目指し、民国の連携を促進しつつ、地域ニーズを踏まえた地域振興への取り組みが重要であり、このことが今後の森林・林業の発展に繋がるものと認識しています。本大会において、九州の課題を的確に捉えたテーマの研究成果、取り組みについての発表が期待されるとともに、この発表大会を機に皆様の相互交流が一層盛んになること、及び森林・林業の再生に向けた取り組みに弾みがつくよう期待します」とあいさつの後、一般の部17課題の発表があり、1日目の最後に宮崎森林管理署崎野健輔署長より「（綾の照葉樹林プロジェクト）活動10年の取組について」の特別発表がありました。二日目は高校の部9課題の発表後、鹿児島大学農学部生物環境科教授・寺岡行雄氏による「高精度森林情報とICTを活用した森林・木材生産のあり方」と題した特別講演を行いました。最後に審査委員長の（国立研究開発法人）森林総合研究所九州支所の森貞和仁所長から、講評があった後、九州林政連絡協議会会長賞（最優秀賞1課題、優秀賞4課題）と高校生対象の九州森林管理局局長賞（最優秀賞1課題、優秀賞2課題）に表彰状が授与され、2日間の発表大会を終了しました。



特別講演の寺岡教授

26課題の中から評価の高かった  
一般部5課題と高校生部3課題を表彰

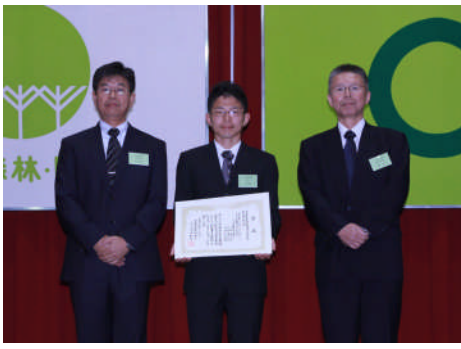
平成27年度森林・林業の技術  
交流発表大会の各賞の入賞課題  
と発表者は次のとおりです。

九州林政連絡協議会会長賞

【最優秀賞】

◇ 民有林GISデータを活用  
した官行造林事業の取組み  
大分森林管理署

小畑 暢  
上村 徳光  
渡辺 行直



最優秀賞の上村氏・小畑氏・渡辺氏

◇ 【優秀賞】  
2眼カメラによる検知作業  
の取り組みについて

(株) 日田十条  
瀬戸 亨一郎  
福岡森林管理署  
和田 弥己



最秀賞の和田氏・瀬戸氏

◇ 協働で進める森林経営計画  
策定推進の取組み  
熊本県北広域本部  
鹿本地域振興局林務課  
佐藤 博文



最秀賞の佐藤氏

◇ 脊振山系における原木流通  
の再構築  
福岡県福岡農林事務所  
大井手 絵里子



最秀賞の大井手氏

◇ サカキの産地化に向けた取  
り組み  
佐賀県東部農林事務所  
林務課  
宇藤 志保  
山浦 好孝



最秀賞の山浦氏・宇藤氏

九州森林管理局長賞

★高校生の部★  
【最優秀賞】

◇ 芦北版☆「木育」活動プロ  
デュース  
熊本県立芦北高等学校

原屋 裕  
中島 秀  
松岡 匠磨  
塚本 実  
諫山 雄一郎



最優秀賞＝熊本県立芦北高等学校

◇ 【優秀賞】  
山都町特産品プロジェクト  
熊本県立矢部高等学校  
大濱 諒人  
工藤 修吾  
山崎 侑弥



優秀賞＝熊本県立矢部高等学校

◇ 虹の松原を守ろう！～松露  
プロジェクトを通して『地域』  
を元気に～  
佐賀県立唐津南高等学校

桑原 竜輝  
黒岩 和也  
小野 麟太郎  
谷丸 勝輝  
原野 修輔  
中山 凜人  
柴田 凌



優秀賞＝佐賀県立唐津南高等学校

(担当＝技術普及課)

# モニタ－会議を開催 綾の照葉樹林視察や意見交換

10月24日、平成27年度国有林モニタ－会議を宮崎県東諸県郡綾町の綾の、照葉樹林で開き、11人のモニタ－の皆様にご参加いただきました。

モニタ－会議は現地視察や意見交換会を通じて、モニタ－の皆様は国有林の取り組みをご理解いただくとともに、より身近な存在として認識していただくことを目的に、毎年開いています。

今年度2回目のモニタ－会議は、モニタ－の方々の同行のもと、アンケート結果を踏まえ、



モニタ－会議の参加者



熱心に説明を聞くモニタ－

生物多様性保全等の取組をテーマに行いました。  
冒頭、崎野健輔宮崎森林管理署長より「綾の照葉樹林プロジェクトについて」説明を行った後、綾の照葉樹林内にて、崎野署長、井上正森林技術指導官、宇野裕和地域技術官の同行のもと、現地説明を行いました。参加されたモニタ－の方は、説明を熱心に聞き入っていました。  
現地視察の後は、照葉樹林文化館の研修室にて全体を通しての質疑応答と意見交換会を行いました。

モニタ－の方々からは「官民

の5団体が自然林等の保護を含めた目的に向かって事業を進めていることに感銘した」「綾の照葉樹林プロジェクトのような取組を地元でも行いたい」「綾の照葉樹林プロジェクトをはじめ様々な取組について、さらにPRしてほしい」などの感想がありました。

参加者からいただいた貴重な意見や感想は、今後の国有林野の管理経営に活かしていくこととしていきます。

(担当II企画調整課)

## 新たな森林整備協定を締結

【熊本森林管理署】当署会議室において、江頭実菊池市長、家入勲大津町長および前川收菊池森林組合代表理事組合長と森本



協定締結を終えた4者

義春熊本森林管理署長をはじめ関係者が出席して「菊池市・大津町地域森林整備推進協定」の調印式を行いました。

本協定は国有林と菊池市有林、大津町有林、民有林（長期受委託者）の4者によるもので、民有林・国有林合わせて3103畝の森林共同施業団地を設定しました。

調印式では協定相手方を代表して、前川組合長から「材価が低迷する中、作業コストを下げするために林道の連結が大切。森林所有者の林業経営に対する意欲向上や森林の多面的機能の発揮のためにも今回の協定締結は意義がある」旨のあいさつがありました。

今後、この協定が地域の森林・林業再生のモデルとなるよう、路網整備や間伐など、民有林と国有林が連携して効率的な森林整備を推進することとしています。

## 長崎ブロック有志協開く

【長崎森林管理署】地域社会と国有林野事業の連帯の強化を図り、地元農山村の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することを目的として、長崎ブロック国有林野等所在市



市町村有志協議会の様子

町村長有志協議会を諫早市のホテル八千代にて、開きました。  
当日は、古川隆三郎島原市長をはじめ、12市1町の首長や幹部（林務担当）の方々に参加いただきました。

会議では、長崎県と九州森林管理局から情報提供した後、当署の重点事項である「民国連携に関すること」についてなどの説明を行いました。

その後の意見交換では、有害鳥獣の被害の現状と対策について、近年の大雨などの災害に際しての県の防災対策について、CLT建築の現状と今後の対応についてなどを話し合いました。  
今後も、民有林と国有林が連携して、長崎県の林業に寄与出来るよう、情報発信に努めていくこととしています。

# シカ被害担当者 打合せを開催

9月29・30日の両日、九州森林管理局大会議室において、各署等のシカ被害対策の担当者を対象とした「シカ被害対策担当者打合せ」を開きました。

打合せでは、今年10月1日から施行された「鳥獣捕獲による国有林への入林手続きの簡素化」を中心に、近年のシカ被害の深刻さを踏まえて、シカ被害対策の取り組みや課題に対してなどの意見交換を行いました。

入林手続きの簡素化については、狩猟期を直前に控えていることから、具体的な取り扱いについて、各参加者から活発な意見



質問に答える保全課職員



説明を聞く各署等の担当者

見が出され、具体的な手続きの事務処理について、意思統一を図る必要があることから、今回の意見を含め、Q&Aを整理し、実施することとしました。

シカ被害対策の取り組みについては、環境省と農林水産省で策定した「抜本的な鳥獣捕獲対策」を基本として、現在、実施している九州森林管理局内の取り組みについて、参加者へ説明し、今後の取り組みに対する、共通認識を図りました。

今後の課題としては、獣害による森林被害報告の考え方など

についての意見が出され、被害（植栽木、生態系）現状に合った算定方法を検討することになりました。

シカ被害対策は、結果が見えづらい事業ではありますが、今回の打ち合わせで参加者が共通認識を持ち、目標に向け引き続きシカ被害対策を推進して行くことで閉会しました。

（担当＝保全課）

## 熊本ブロック有志協開く

【熊本森林管理署】KKRホテル熊本において、「平成27年度国有林野等所在市町村長有志協議会」を開きました。

会議には国有林野等所在する31の市町村から首長をはじめ



有志協での意見交換の様子

林務担当者、来賓には熊本県農林水産部江上憲二森林局長、九州森林管理局から洲上和之局長と甲斐博文技術普及課長が出席しました。

冒頭、洲上局長から林業の産業としての定着、シカ被害への取り組みや地域との連携などを内容とするあいさつがあり、その後、甲斐課長が今年度の九州国有林の取組事項などを説明し、熊本県の江上森林局長からは、「熊本の「山のしごとシステムづくり」などに関する情報提供がありました。

意見交換では、シカ被害対策に係る駆除班の高齢化対策や、効率的な捕獲技術の開発、また、木材の利用促進や輸出などについても意見が出されるなど活発な会議となり、今後も各種の問題に民間が連携して取り組むこととして閉会しました。

## 中学生が職場インタビュー

【都城支署】えびの市立加久藤中学校の生徒2人が、えびの・白鳥合同森林事務所にて職業インタビューで来所しました。

生徒は、最初はやや緊張気味でしたが、説明が進むにつれ徐々に緊張もほぐれ、時折、笑顔を見せながら、真剣なまなざしで



中学生からインタビューを受ける職員

説明を聞く姿が印象的でした。最後に、「国有林の仕事と森林の大切さを理解でき、勉強になりました」とのお礼の言葉をいただきました。

この職業インタビューは、加久藤中学校が、キャリア教育の一環として、①働くことの意味や職業に対する意識を高めること。②勤労の尊さや飲びを実感することで、自分を見つめ直すとともに身近な人々の仕事を理解させること。③主体に考え、行動することの大切さを知るとともに、生きていく上で必要な資質を養うことを目的として行われています。当支署としても、協力していきたいと思っております。

# 救急法講習会を開催

## 救急法の現状と応急手当を学ぶ

国家公務員健康週間中の10月5日、大会議室において「救急法講習会」を開きました。

当日は、熊本西消防署池田庁舎から一村直樹隊長をはじめ7人の方を講師に招き、多数の職員が参加して行われました。

今回の講習会では、「救急時の対応について」と題して、救急法の現状と応急手当の流れについて学びました。

はじめに、応急手当の大切さについてビデオ鑑賞後、隊長がパワーポイントを使って「熊本市の救急車の台数は?」「救急隊員の人数は?」など、質問を交えて熊本市の救急体制について説明されました。

ポイントとしては、「小児では交通事故や不慮の事故を未然に防ぐこと」「成人では病気を未然に防ぐことや転倒防止、食事中の事故に注意する」など「予防」の大切さについて説明



講師の一村隊長



心臓マッサージとAEDを体験する職員

がありました。

次に、「倒れている人を発見したら慌てず落ち着いて応急手当を行うことが大切」「救急車を呼んだら電話を切らずに119番の指示に従うこと」「救急車が到着するまでの時間が命を守る大切な時間です」の話があり、心臓マッサージの方法などわかりやすく説明がありました。応急手当の実技練習では参加者が3班に分かれ人形を使って行いました。発見者は声をかけ反応を確認し、「Aさん、救急車へ連絡してください」「Bさん、AEDを持ってきてください」と指示、合わせて心臓マッサージを行うなど本番さながら

の実習となり、参加者は額に汗し真剣に取り組んでいました。参加者からは「熊本市の救急車の台数が25台では少ないようですが、今まで対応できない事例はありますか?」「子どもの心臓マッサージはどのような手順ですか?」など多くの質問が寄せられ、充実した講習会となりました。

(担当)総務課

## 森林作業現地検討会を開く

【宮崎北部森林管理署】宮崎県関係機関、管内各市町村および関係林業事業体、当署職員など約30人が参加し、管内の保育間伐請負箇所において「森林作業道現地検討会」を開きました。

まず、工藤孝署長から「森林作業道の整備は林業再生の基盤となるものです。作設計画に当たっては、現地確認を十分に行い、環境に配慮し、効率的で低コストが可能なルートを決定することが重要です」とあいさつがありました。

その後、各班に分かれて森林作業道のルート決定や発表などを行った後、意見交換を行い、活発な意見が出されました。午後からは、森林作業道の作設手順説明や、オペレーターに



作業道のルートを検討する参加者

よる作設実地演習と意見交換を行いました。

作設の実地演習では、天地返しによる路体の転圧などの様子に、参加者は目を凝らしていました。

また、既設森林作業道の現況写真の説明では、丁寧に路体を転圧することや、水処理をきちんとすること、長く使える堅固な森林作業道が作設出来ることを参加者全員が再確認し、実りある検討会となりました。

## くじゅうの自然に感謝する日

【大分森林管理署】大分県では、毎年、県主体で県民や事業者、行政機関が「くじゅう地域の自然保護と適正な利用」を推進することを目的に、「くじゅうの

自然に感謝する日」を設定して、ボランティア活動による、くじゅう地域の一斉清掃や登山道の補修、外来生物の除去などを行っています。

19回目となる今年も10月3日に設定され、当署も、環境省くじゅう自然保護官事務所や、NPO法人久住高原みちくさ案内人倶楽部と協働で、ミヤマキリシマを被圧しているネジキやノリウツギ、カヤなどの伐除作業に汗を流しました。

作業は、眼下に阿蘇五岳、祖母・傾山、遠くは島原普賢岳までもが望める、眺望豊かな久住山南登山道の中腹地点(馬の背)で行いました。この作業で、近年開花が少なくなっているミヤマキリシマの名所になることが期待されます。



ボランティア活動を終えた参加者

## 「ニッセイの森」 森林整備活動

【大分森林管理署】ニッセイ緑の財団では、社員やその家族の方々に、森林づくりの大切さを理解していただくため、財団の支援による森林づくり体験ボランティアを開いています。

当署管内では、2015年度の育樹活動を、由布市湯布院町由布鶴見岳国有林12い林小班「ニッセイ湯布院の森（分収造林）」で行いました。

約60人のボランティアが参加し、クヌギの本数整理が行われ

ました。

当署からも、川畑宏二署長をはじめ7人が参加して、各班に



森林整備に集まった参加者



職員の指導でクヌギを伐る参加者

できない様子でしたが、慣れるに従いノコを引く手にも力が入り、次々と作業を進めて行きました。

参加者からは、作業を通じて林業の厳しさや、森林環境の大切さが理解できたとの声も聞かれ、次回を楽しみに家路につきました。

## 採材検討会を開く

【大隅森林管理署】当署の森林整備事業保育間伐(活用型)実行箇所において、請負事業者の造材担当者、システム販売協定相手方、木材市場関係者および当

せんが、こういった施設は、これからドンドンできると思いますが、

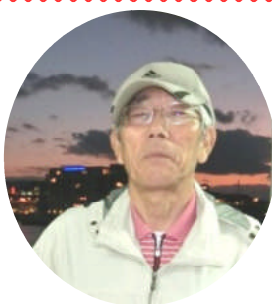
先日、モニター会議に出席しましたが、間伐箇所及び製材工場を視察し、

想像以上に機械化が進み、効率的に事業が行

われていることに驚きました。

今後、機械化がこれまで以上に進み、林業が産業として成長していくことに期待をしています。

(福岡県福岡市在住)



高岡恭一さん



お世話になります。

私は、64才ですが、現役のフルタイムで働いています。

小学校の高学年算数を指導しています。毎日、子供たちがわ

かったという笑顔を見たくて頑張っています。

4年前、フィリピンの私立学校の特別支援学級へ技術指導ということで1年間派遣されました。

通訳がつく予定でしたが、3か月は実力で頑張りました。英検準2級でしたが、専門用語も出てくるので疲れました。今では2級です。この時はNISAというNPO法人での派遣です。

いろんな人と知り合い、とも

## 林業が産業として成長することを期待

先日も準1級の試験を受けました。さて、林野庁も少しずつ変わってきましたね。高知県だっと思いましたが、林間遊歩道を整備し、宿泊施設もあるそうです。真似をしてというのではありま



採材方法を検討する参加者

署関係職員など、約90人が参加して採材検討会を開きました。これは、お互いの情報を共有し、認識を深めることで、総合的に収入の向上に繋げることを目的に行ったものです。

検討会では各システム販売協定者から、受入れ規格などについての説明の後、素材生産者と需要者が一緒に原木の採材検討を行い、実際に玉切り検証をするなどして、共通認識を高めました。

質疑では、「B材としてのどの程度まで受入れが可能か」という質問や、造材後に注意してもらいたいことについての要望など、活発な意見が出され有意義な採材検討会となりました。

# 本年度第2回目

## 国有林材供給調整検討委員会を開催

9月14日に本年度2回目の

「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べ、  
「現時点で供給調整の必要はないが、需要の伸びが予想されることから、計画通りの供給を行うとともに、需要の急増時には供給増も検討する必要があります」との結果になりました。

委員からは、「需要の動向がつかみにくい状況であり、素材生産業者としては丸太の買い取り価格を提示してもらえれば、安定した経営ができる。供給調整は必要ない。／民有林の一般



委員会の様子

材原木の供給は雨の影響で需要期よりも遅れて出材されそうである。国有林は計画通りに供給してほしい。／CLTや、国産の2×4等の新たな木材需要が生まれた中で、原木の供給が追いついていないように感じる。システム販売の需要も多く供給量を増やすべきだ。／非住宅の木造の需要は安定してあるが、公共事業が若干遅れている。今後、発注が出てくるのではないかと。供給調整は不要であるが、国有林は安定した供給をしてほしい。／製材品は6月まで低調だったが、梅雨明け後、需要が起きている。8月あたりをピークにこれ以上の原木の値上がりはないように感じるが、国有林は計画通り出材してほしい。／合板は来月には通常の生産体制に戻したいが、長雨等の影響で原木が入ってきていない。供給調整は必要ないが、国有林は計画通りの供給をするべきだ。／チップは足りない状況が続いている。年度内は頑張っって原木を集荷しないとけない。国有林はできるだけ多く供給してほしい

い」などの意見が出されました。  
(委員会の概要は局ホームページに掲載)  
(担当)地域木材情報分析官



意見交換をする参加者

### 県内森林管理署合同勉強会

【熊本森林管理署】昨年度に引き続き、「熊本県内森林管理署合同勉強会」を開きました。

今回は、8月17日から9月3日の間、熊本県林業研究指導所で開かれた「林業架線作業主任者講習」の一部(4日間)を聴講するという形で行い、熊本、熊本南部署から11人が参加しました。

これは、今後、主伐・再造林の推進に加え、事業地の奥地化や、地形が急峻な箇所での事業実施が想定され、架線系による



林業架線の講習を受けている職員

事業の増加が見込まれることを背景に、林業架線に係る基本的な知識などの習得を目的としています。

参加した職員は、林業架線に係る知識などを得ることができ、林業技術者としてさらなるスキルアップが図られました。

また、今回は熊本県主催の講習への職員参加でもあり、民・国連携の観点からも有意義な勉強会となりました。

### 「森の恵 自然観察会」開く

【熊本南部森林管理署】「ゴイシツバメシジミ」自然観察会に続き今年度2回目となる、「山の日」制定記念行事「森の恵・自然観察会」を、相良村北嶽神社周辺の国有林で開き、約20人が参加

しました。

当日は、環境省希少野生動物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に迎え、神社までの参道沿いを散策しながら高木類や草本類、シダ類などを観察しました。参加者は、フタリスズカやミズメなど数多くの植物を観察。途中、自生していた傘が、20センチ以上もある巨大なこのマントカワカサタケに驚きながらも、乙益氏の説明を熱心にメモを執り、植物の写真を撮っていました。

参加者からは「楽しかった」「次はいつ開催ですか」といった声が寄せられ、森林への関心・感謝が深まるきっかけとなった。有意義な観察会になりました。



乙益講師の説明を聞く参加者

# 管理医による衛生講話を実施

「健康寿命を延ばすには」と題して

10月23日、九州森林管理局大会議室において、多くの職員が参加する中、健康管理医である吉田病院院長の吉田仁爾(ひとし)先生を講師に迎え、衛生講話を開き、「健康寿命を延ばすには」と題し、講話をいただきました。

はじめに、先生は平均寿命と健康寿命について説明され、「健康寿命は健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間です」と、健康寿命の大切さについて説明されました。また、昭和22年からの主な死因別にみた死亡率の年次推移では、現在は悪性新生物が最も多く、心疾患、肺炎、脳血管疾患が続いていることを紹介されました。



講話する吉田医院院長

がんについては、早期発見は治せるので検診による早期発見に努めることが大切で、バランスのとれた栄養を摂ること。お酒はほどほどにすること。適度にスポーツをすることなど「がんを防ぐための12カ条」について紹介されました。また、メタボリックシンドロームや高血圧、糖尿病、動脈硬化などの病状や対応策、病気になるやすい生活習慣などについて講話されました。最後に、ウォーキングは健康に優れた効果があること。和食の効果や食べ方の点検について



ヤマモガシは、九州各地の暖かい地方に分布し、名前の由来はホルトノキを別名モガシといひ、山にあることから説明されています。

高さ6m内外(牧野図鑑)の常緑樹で、ホルトノキやヤマモガシの葉に似ています。

葉は、基部が葉柄に流れ、薄い革質で、葉の表面は濃緑色で光沢があります。裏面は緑白色で、両面とも毛はありません。

幼木の葉に極端に小さい鋭い鋸歯があるので、観察会では誰でも気がつき「これは何の木で



受講する職員

食の効果が食べ方の点検について

## 96 ヤマモガシ (ヤマモガシ科)

すか」と質問されます。しかし成木を森で見つけることは容易ではありません。

鋸歯がある(成木では波形の鋸歯)、葉先の黄緑の枝に稜がある、葉表の主脈が突出、葉柄の基部が膨らんでいることを観察することで判別できます。樹木園には大きいゴヨウマツのある区画の次の区画、西側に成長盛りのヤマモガシがあります。

果実は楕円形で堅果となりまず。サントリー工場で観察し写真を撮りましたが残念ながら花の写りが撮れていません。花の時期は7~8月です。



て、笑いの健康効果や質の良い睡眠についてなど、健康寿命を延ばすための生活習慣について講話いただき、参加者は真剣に耳を傾けていました。

(担当)総務課

お悔やみ申し上げます

笠本佳宏 様

屋久島森林管理署栗生森林事務所勤務、農林水産技官笠本佳宏様は、10月10日、ご逝去されました。(享年28歳)



「ある日森の中、くまさんに出会った」童謡森のくまさんの歌詞に出てくる様なことが起こった▼佐賀、福岡県境の背振山で登山者から「クマのような動物を見た」との目撃情報が寄せられ、新聞紙面などを賑わせました▼専門家からは、イノシシとの見間違えなどの意見もありましたが、目撃現場で採取された動物のふんが「ニホンアナクマ」のものであったことが分かり、断定は出来ませんが、アナクマを見間違えたのでは、ということとで落ち着いたようです▼一方、イノシシは住宅地にまで出没して来ているようで、先日の新聞に、住宅地に2頭のイノシシが出没し射殺された記事が掲載されていました▼増えすぎたイノシシやシカの対策ということもあり、今年は今月1日から福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島県の5県において、イノシシ・シカの狩猟が解禁となっております、その他の県についても15日が解禁日です▼狩猟等に関する安全確保対策につきましては、有害鳥獣捕獲期間も含めて、災害の未然防止のため、安全確保に努めてください。(文)